

平成 21年 4月 29日現在

研究種目：基盤研究（c）

研究期間：2006～2008

課題番号：18520537

研究課題名（和文） 内蒙古東部における青銅器文化関係資料の調査に基づく先秦時代北方民族の研究

研究課題名（英文） A STUDY OF ETHNIC GROUPS IN THE NORTHERN FRONTIER OF CHINA BEFORE THE 3RD CENTURY B.C. BASED ON INVESTIGATIONS OF SOURCES CONCERNING BRONZE CULTURES IN THE EASTERN INNER MONGOLIA

研究代表者 吉本 道雅（YOSHIMOTO MICHIMASA）

京都大学・文学研究科・教授

研究者番号：70201069

研究成果の概要：ユーラシア東部の歴史的推移は中国本土の農耕民とモンゴリアの遊牧民の対立が一つの基軸をなす。中国先秦時代（～前3世紀）はこの農耕・遊牧対立の図式が形成される時期に当たる。本研究は、内蒙古東南部地区の青銅器文化、とくに夏家店上層文化およびそれに後続する諸文化に関わる考古学的資料の現地調査を踏まえ、文献史学・古文字学・考古学といった多面的な研究方法によって、この時期の内蒙古東南部における北方民族の実態を包括的に解明するものである。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,400,000	0	1,400,000
2007年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2008年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	3,500,000	630,000	4,130,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・東洋史

キーワード：内蒙古・敖漢旗・青銅器・夏家店上層文化・先秦・遊牧・東胡・貊

1. 研究開始当初の背景

北方民族の研究は、中国史・北方民族史・考古学の学際的領域だが、それぞれの研究は必ずしも十分には整合していない。個々の民

族ないし考古学的文化の担い手を、歴史的な全体像に位置づけるには、文献の記述が決定的な役割をもつ。さらに先秦時代については、文献の量的な制約から出土文字資料が大

きな役割を占める。とりわけ先秦期を扱った文献・出土文字資料を用いるには、資料学的な見識を要するが、その点で、北方民族史・考古学の研究者による文献・出土文字資料の扱いには問題が多い。

研究代表者は、中国史の側から、先秦時代の中国本土における王朝・諸侯国の国制、先秦期を扱った資料の研究を進めてきたが、とくに近年では、中国専制国家の一つの重要な要件となる華夷関係の形成過程を研究課題に加え、北方民族史研究の基本的資料となる文献・出土文字資料の資料学的分析を進め、若干の成果を獲得している。すなわち、「匈奴初見考」（2002）では、先秦期の北方民族を考える上での最も基本的な資料である『史記』匈奴列伝を分析し、その記述の多くが前漢中期における「解釈」を示すに過ぎないことを確認した。その結果、戦国後期オルドスのいわゆる匈奴墓葬が、のちに匈奴の傘下に入った楼煩のものであるとの結論を得たが、ごく近年に至り、中国社会科学院考古研究所編『中国考古学两周卷』（中国社会科学院出版社、2004）・馬利清『原匈奴・匈奴一歴史と文化的考古学探索』（内蒙古大学出版社、2005）など考古学の側からも同様の所見が提示されるようになっており、研究代表者の結論を傍証するものとなっている。ついで、「中国戦国時代における「四夷」観念の成立」（2005）においては、出土文字資料および一定の同時代性が確言できる文献に基づき、西周・春秋期の「戎」「狄」について確度の高い知見を獲得することに務めた。この過程で、山西省北部・河北省北部・北京・天津・内蒙古自治区東部・遼寧省西部の青銅器文化に対する考古学的研究を検討する機会を得た。考古学的文化を文献に見える民族に比定することには、近年ではよほど慎重な態度をとるようになってきているが、それでもなお歴史の全

体像に個々の文化を位置づける際には不可欠の作業となっている。そうした場合の文献の取り扱いに問題があることをあらためて確認した。

2. 研究の目的

中国北疆の諸文化のうち、ある意味でもっとも不透明なものが、内蒙古東部を中心とする夏家店上層文化である。時期・範囲ともに異説が多く、文化の担い手たる民族についても、劉観民・徐光冀「内蒙古東部地区青銅時代兩種文化」（『内蒙古文物考古』創刊号、1981）は山戎・東胡、靳楓毅「夏家店上層文化及其族属問題」（『考古学報』1987-2）は東胡、林灃「東胡与山戎的考古探索」（『環渤海考古国際学術討論会論文集』、知識出版社、1996）は山戎とするなど諸説がある。また秋山進午「赤峰市寧城小黑石溝と南山根遺跡」（『東北アジア民族文化研究』、同朋舎、2000）はこれらの墓葬を狄のものとし、春秋後期以降独自の見解を提示している。このような異説の多さからも窺われるように、夏家店上層文化の研究はなお未開拓の点が多く、とくに日本においてこれを専論したものは上掲の秋山論文にとどまるが、表題に見える二遺跡の出土品を中心とした青銅器を簡単に論じたものに過ぎない。

本研究は、先秦時代の中国北方民族研究の一環として、とくに夏家店上層文化を取り上げ、東部内蒙古における関係資料の調査を行うものである。

3. 研究の方法

夏家店上層文化の遺跡としては、赤峰夏家店・薬王廟・蜘蛛山・紅山後、寧城南山根・小黑石溝・汐子北山嘴・瓦房中・天巨泉・梁家営子・孫家溝、敖漢旗周家地・山湾子・熱水湯・東井・大哈巴齊拉・千斤営子などがあ

るが、本研究では、とくに従来未公開の敖漢旗博物館館蔵の関係資料を重点的に調査するものである。敖漢旗博物館に注目するのは、『中国文物地図集・内蒙古分冊』（西安地図出版社、2003）に明示されるように内蒙古の県級行政区では最多の遺跡数を誇ることに、そのため中国社会科学院考古研究所・内蒙古文物局といった上級機関を介さない博物館独自の調査発掘を行い、館蔵品が豊富であるためである。加えて、2005年8月の研究分担者による予備調査で判明したことが、赤峰市博物館・寧城県遼中京博物館に比べ、敖漢旗博物館の運営が充実しており、館蔵文物の公開にも意欲的であることである。前館長・邵国田は『敖漢文物精華』（内蒙古文化出版社、2004）を編纂公刊しているが、内蒙古東部の県級博物館の中で唯一の本格的な資料集である。現館長・田彦国によれば、出版費用の点で膨大な館蔵品のごく一部を掲載したに過ぎず、財政的な条件さえ許せば、その他の館蔵品も積極的に公開したいとの意向であり、資料調査・共同研究に対する内諾をすでに得ている。

調査に際しては、とくに文献に見える山戎・狄への比定に関わる夏家店上層文化終末期に重点を置きたい。同文化を後継するといわれる敖漢旗鉄匠溝の戦国墓地もこの問題に関連して重要である。

以上の現地調査を踏まえ、夏家店上層文化の波及とされる遼寧省西部・河北省北部の遺跡、さらには北京地区の玉皇廟文化との関係を検討することで、文献・出土文字資料だけでは不明の部分が多かった、西周・春秋時代におけるこの地域の「戎」「狄」に関する確実な知見を増大させ、さらには文献・出土文字資料と考古学的資料の整合的解釈に関する方法論の構築が期待される。

4. 研究成果

【平成18年度】平成18年6月13日付で共同研究項目について敖漢旗博物館・田彦国館長に提示し、快諾を得た。8月6～12日、研究代表者・研究分担者兩名にて、内蒙古東部地区の現地調査におもむき、敖漢旗博物館の夏家店上層文化を中心とする青銅器文化関係文物の資料調査を行い、あわせて館長・副館長と懇談し、夏家店上層文化に関する現地発掘担当者としての所見を聴取した。さらに同館の館蔵文物の撮影を行い、館員の案内で、燕北長城附属の方城遺址（斉大窩鋪戦国城址）を参観し、陶片を収集した。また同館刊行の資料を恵贈いただいた。同調査期間に、赤峰市博物館・寧城県博物館（遼中京博物館）・翁牛特旗博物館にもおもむき、館長・副館長と懇談するとともに可能なものについては撮影を行った。9月20～23日、大連民族学院において開催された「首届中国満学高峰会議」に参加し、研究発表を行うとともに、中国東北地区各地の研究者と懇談した。会期中、大連大学を訪問し、関係研究者と懇談するとともに、附属博物館を参観し、資料の写真撮影を行った。これらの機会に撮影した写真については全てデジタル化した。

敖漢旗博物館などにおける現地調査の結果として、①学術雑誌などに公表されていない資料がなお大量に存在する、②内蒙古東部地区の青銅器文化の類型・編年につき、赤峰市区の博物館の間においてさえ見解の相違がある、③夏家店下層文化と夏家店上層文化の間には一般的に文化的空白が報告されているが、敖漢旗博物館ではこの空白期に相当する遺物を発見し、「柳南類型」と命名している、④『中国文物地図集・内蒙古分冊』は公刊された調査資料としてはもっとも包括的だが、それでも主要な遺跡しか掲載していない。また採用された公式の地名と現地の通

称の間には齟齬があり、そのことが報告書にも反映されている、などの重要な所見を得た。

【平成 19 年度】前年度の協定に基づき、敖漢旗博物館においては、夏家店上層文化を中心とする館蔵文物の整理、写真撮影、解説執筆を進めていたが、平成 19 年 9 月にこの作業を基本的に完成し、およそ 100 件の画像および解説が、研究代表者に送付された。従来未公開の資料群であり、『敖漢旗文物精華』に発表済みの資料とあわせて、DBのかたちで編集した。その一部は冊子体の形態で、報告書に掲載している。

前年度に引き続き、敖漢旗を中心とする内蒙古東部地区の考古学諸文化について、夏家店上層文化を中心に整理を進めた。本年度はとくに、いわゆる「農牧交錯地帯」における新石器～初期鉄器時代の環境変化に対する研究状況に重点を置いた。このため、研究分担者 1 名にて平成 19 年 5 月 29 日～6 月 4 日および 8 月 20 日～9 月 7 日の 2 回にわたって、中国農業大学（北京市）・内蒙古自治区博物館（フフホト市）・赤峰市博物館（赤峰市）・遼寧省博物館（瀋陽市）などにおいて関連資料の収集を行った。

夏家店上層文化を文献に見える民族集団に比定する従来の諸研究を検討した。前年度公刊した「史記匈奴列傳疏証」（『京都大学文学部研究紀要』45、33-83 頁、2006 年 3 月）において、夏家店上層文化を山戎に比定すべきことを確認したが、本年度は東胡・貊について検討を進めた。東胡はかつて夏家店上層文化の担い手に比定されたことがあり、貊は十二台營子文化や夏家店上層文化の衰退後に敖漢旗地域に出現した鉄匠溝遺跡の担い手に比定されている。これらの説の根拠となる文献資料に対する包括的検討を進め、確実な知見の構築に務めた。その研究成果の

一部を「東胡考」「中国先秦時代の貊」の二篇の論文として公刊した。

【平成 20 年度】平成 20 年度においては、研究成果報告書を作成した。報告書は研究篇・資料篇の二部構成を採る。研究篇には、以下の 6 篇の論文を収めた。(1)夏家店上層文化研究の現況—近年の環境考古学的研究に寄せて—（吉本道雅）、(2)内蒙古東南部出土中原有銘青銅器札記（吉本道雅）、(3)先秦北族関係文献の研究—夏家店上層文化の族属をめぐって—（吉本道雅）、(4)契丹小字『金代博州防禦使墓誌銘』墓主非移刺幹里朶—兼論金朝初期無「女真國」國號—（愛新覺羅烏拉熙春）、(5)金代契丹人習撚鎮國墓所出帛畫考（愛新覺羅烏拉熙春）、(6)漚思涅烈家族與東丹國世選制（愛新覺羅烏拉熙春）。(1)～(3)は夏家店上層文化およびそれに後続する諸文化に関わる考察である。(1)は考古資料、(2)は出土文字資料、(3)は文献に基づき、夏家店上層文化の族属に関わる問題を包括的に考察している。(1)では近年の環境考古学の発展をふまえ、中国北疆への遊牧民の南下を展望し、(2)では西周金文断代の修正案を附記し、(3)は〈第一章 戎狄〉〈第二章 貊〉〈第三章 東胡〉の構成をとって、中国北疆に出現する異族の実態につき、その出現の順番に検討を加えた。(4)～(6)は、本研究の調査対象である敖漢旗出土の遼金時代文物をあつかった専論である。資料篇は、「内蒙古自治区敖漢旗博物館館蔵資料図録」と題して、敖漢旗博物館提供の夏家店下層文化～戦国期の関係資料のカラー図版ならびに解説を掲載したものである。『敖漢旗文物精華』に既発表のもののほか、従来未公開のものを含め、合計 110 点の文物を紹介するものであり、関連研究に重厚な基礎資料を提供するものである。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 12 件)

- 1 吉本道雅「中国先秦時代の羌」(査読有)、『中国古代史論叢 六集』、1-30 頁、2009 年 3 月。
- 2 吉本道雅「濊貊考」(査読無)、『京都大学文学部研究紀要』48、1-53 頁、2009 年 3 月。
- 3 吉本道雅「先秦時代の内蒙古東南部における考古学的諸文化——近年の環境考古学的研究に寄せて」(査読有)、『史林』92-1、195-213 頁、2009 年 1 月。
- 4 吉本道雅「内蒙古東南部出土中原有銘青銅器札記」(査読有)、『東亜文史論叢』2008-2、11-24 頁、2008 年 12 月。
- 5 吉本道雅「東胡考」(査読有)、『史林』91-2、95-115 頁、2008 年 3 月。
- 6 吉本道雅「中国先秦時代の貊」(査読無)、『京都大学文学部研究紀要』47、1-36 頁、2008 年 3 月。
- 7 吉本道雅「戦国期の易姓革命説」(査読有)、『中国古代史論叢 五集』、1-31 頁、2008 年 3 月。
- 8 吉本道雅「『左伝』と西周史」(査読有)、『中国古代史論叢 四集』、1-40 頁、2007 年 3 月。
- 9 吉本道雅「弱水考」(査読有)、井上充幸・加藤雄三・森谷一樹編『オアシス地域史論叢—黒河流域 2000 年の点描—』、1-17 頁、松香堂、2007 年 3 月。
- 10 吉本道雅「中国古代の世界観」(査読有)、藤井讓治・杉山正明・金田章裕編『大地の肖像—絵図・地図が語る世界—』、2-14 頁、京都大学学術出版会、2007 年 3 月。
- 11 吉本道雅「中国古代における華夷思想の成立」(査読有)、夫馬進編『中国東アジ

ア外交交流史の研究』、4-30 頁、京都大学学術出版会、2007 年 3 月。

- 12 吉本道雅「中国戦国時代における「四夷」観念の成立」(査読無)、『東アジアにおける国際秩序と交流の歴史的研究 ニューズレター』4、11-14 頁、2006 年 4 月。

[学会発表] (計 2 件)

- 1 吉本道雅「睡虎地秦簡年代考—附論 中国古代史研究の現状」、北京与京都—架設中日的知識橋梁、北京大学歴史学系、2007 年 12 月 15 日
- 2 吉本道雅「肅慎考」、首届中国滿学高峰会議、大連民族学院、2006 年 9 月 21 日

[図書] (計 2 件)

- 1 吉本道雅編『内蒙古東部における青銅器文化関係資料の調査に基づく先秦時代北方民族の研究(平成 18 年度～平成 20 年度科学研究費補助金(基盤研究(c))研究成果報告書)』、158 頁、京都、京都大学文学研究科、2009 年 3 月。
- 2 ロータール=フォン=ファルケンハウゼン著、吉本道雅訳・解題『周代中国の社会考古学』、395 頁、京都、京都大学学術出版会、2006 年 12 月。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

吉本 道雅 (YOSHIMOTO MICHIMASA)
京都大学・文学研究科・教授
研究者番号：70201069

(2) 研究分担者(平成 18・19 年度)

吉本智慧子 (YOSHIMOTO CHIEKO)
立命館アジア太平洋大学・アジア太平洋学部・教授
研究者番号：70331105